

徳川吉宗と薬草

星薬科大学名誉教授 南雲 清二

〔講師略歴〕

南雲 清二（なぐも せいじ）

昭和50年 星薬科大学大学院 修士課程修了

平成23年 星薬科大学名誉教授

前星薬科大学薬用植物園園長

元日本生薬学会関東支部長

元日本植物園協会常務理事

放送大学薬草学講師

薬学博士

吉宗と薬草

平成 27 年 7 月 8 日
薬草教室 南雲清二

享保の改革で知られる八代将軍徳川吉宗は、幕政強化や学問奨励を行った名君として知られていますが、薬草や医療に関わることで多くの改革を行っています。代表的なこととして次のようなことが挙げられます。

① 薬園の開設 ②人参の栽培化 ③諸国産物調査 ④薬種流通改革

これらの政策は互いに関連がありますが、今回は身近な話題として、①と②を中心に取り上げてみました。

薬園の開設 :

三代将軍家光の時代、江戸の 2 か所に薬園が開設されました。これらはその後統合され、四代綱吉の代に移転してできたのが小石川御薬園です（1684 年）。小石川御薬園はその後日本の中央薬園として役割を果たし、明治後には小石川植物園となりました。小石川御薬園を今日のように拡張充実させ、養生所を設けたのが吉宗でした。吉宗は他にも江戸近郊に駒場御薬園、下総薬園（船橋市薬園台）などを設けましたのでこれらを見ていくことにいたします。

人参の栽培化 :

人参（オタネニンジン）は日本には自生せず、中国の太行山脈付近と、朝鮮半島との国境にある長白山脈付近が自生中心地といわれています。日本にも古くから生薬は導入されていましたが、江戸時代となり庶民にも生薬が出回るようになると人参ブームが起き、需要が急増しました。清国からは長崎経由で、朝鮮半島からは対馬経由で輸入されましたが、一方では人参購入のため莫大な銀が国外へ流出しました。それでも人参の需要には追いつかないため、吉宗は人参の国内栽培化を決意しました。

人参の種苗を取り寄せ、試行錯誤を繰り返した結果、享保 14 年（1729）に日光今市付近でようやく栽培化に成功しました。その後も栽培は順調に拡大し、栽培開始から 9 年後の元文 3（1738）年には庶民にまで売り渡されるようになり、しかも天明年間（1781-）には清国に輸出するまでに至りました。驚くべき発展ぶりです。人参栽培は日本で初めて成功し、原産地の朝鮮半島での栽培は約 40 年後の 1770 年頃、中国では 1990 年頃とみられています。こうした経緯を紹介しますが、人参は最も重要な薬用植物であり、日本で初めて栽培に成功するという、世界に誇るべき史実がありながら、それらを顕彰する記念碑のようなものが未だどこにもないのが残念です。

叶宗人藥草

東京都薬用植物園
薬草教室

平成27年7月8日
南雲清二

地藥行「總」民庶

隅田川墨堤にモモ、サクラ
品川御殿山にサクラ ハゼ
王子飛鳥山にサクラ
江戸城晩上からサクラ、マツ、カエデ
多摩中野村にモモ
小金井周辺にサクラ
神田川の堤にヤナギ







